

「加工食品輸出クラスター組成のための意見交換会（山形県）」議事概要

日 時：令和5年9月8日（金）14:00～16:35

場 所：山形テルサ 3階研修室A

出席者：

【加工食品製造事業者】

（有）朝日町ワイン、（株）でん六、（株）半澤鶏卵、（株）丸十大屋、米鶴酒造（株）

【支援機関等】

（一社）山形県国際経済振興機構、山形県食品産業協議会、

（独）日本貿易振興機構（JETRO）、（独）中小企業基盤整備機構、

（株）日本政策金融公庫、（株）山形銀行、（株）荘内銀行、アクセンチュア（株）

【行政】

山形県、農林水産省、東北農政局、東北農政局山形県拠点

【加工食品輸出クラスター組成に係る主な意見】

- ・ 単独で輸出するのが難しい場合でも、クラスターを組成して輸出に取り組める環境があれば輸出を進めやすい。
- ・ 酒類単体ではなく、料理や食品と一緒に海外でプロモーションをするのはトレンドになっている。
- ・ 日本の食を複合的にパッケージとして海外に広げていくことが大事ではないか。
- ・ 酒類を輸出する際に、現地代理店からその酒類に合う食材を求められることがあるが、クラスターで連携していれば、一緒に商品提案することができる。
- ・ 事業者ごとに既存の商流があるので、各事業者の流通を巻き込まないと上手くいかないのではないか。
- ・ クラスターでまとまってある商社経由で輸出をするときに、その商社と各事業者において既取引のある商社がライバル関係にあったりすると、取組は難しくなるのではないか。
- ・ プロモーションや展示会への出展まで連携して行うのはよいが、その後、各事業者が実際に商品を輸出して売上を上げることができるのが最大の課題である。
- ・ クラスター組成により、直接貿易が出来る体制を作ることは今後必要となってくるのではないか。
- ・ 県や行政、シンクタンクがクラスター組成の音頭をとってくれれば喜んで協力したい。
- ・ 輸出に当たっての情報交換の場としてもクラスターは効果的ではないか。